和と進歩

創業者　故岩瀬健次郎を偲んで

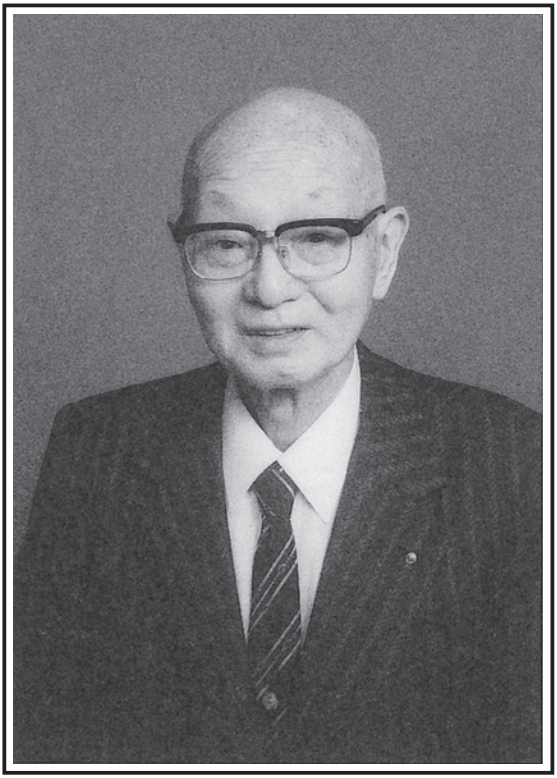
本書は平成七年八月、岩瀬コスファ株式会社・東洋ビューティ株式会社の創業者である故岩瀬健次郎の五年祭に故人を偲び、とくに故人が親しくさせていただいた方々に執筆をお願いして編集・発刊したものを、今回再度復刻したものです。

弊社の創業当時を知る人が少なくなったいま、創業者故岩瀬健次郎の「人となり」、交流のありようをお伝えすることで、弊社を一層深くご理解いただけるものと存じます。

なお、ご執筆者の中にはすでに鬼籍に入られた方、ご職名等が現在と異なっている方もおられますが、右趣意により、あえて原本そのままに再復刻発刊させていただきました。

宜しくご了解の上、ご笑覧賜りますようお願い申し上げます。

令和元年六月吉日



故　岩瀬健次郎

私は明治四一年に京都で生まれ、十三歳の時に道修町のコニシ株式会社にお世話になりました。二三歳の時に円満退社させて頂き、独立商売を始めました。丁度昭和六年の大不況の時で資金もなく信用もなく知識経験も乏しい者が、若さと元気のみで力一杯毎日五〇粁～六〇粁自転車で走りました。月々の売上げ利益は目標達成オーバーして居るのですが、資金繰りが苦しい年が続きました。一向に良くなりません。一時は商売も止め様かとも思った時もあり、家内に励まされ「憂き事の尚この上に積もれかし、限りある身の力ためさん」と口ずさみつつ、もう三ケ月、もう三ケ月を繰り返し頑張りました。

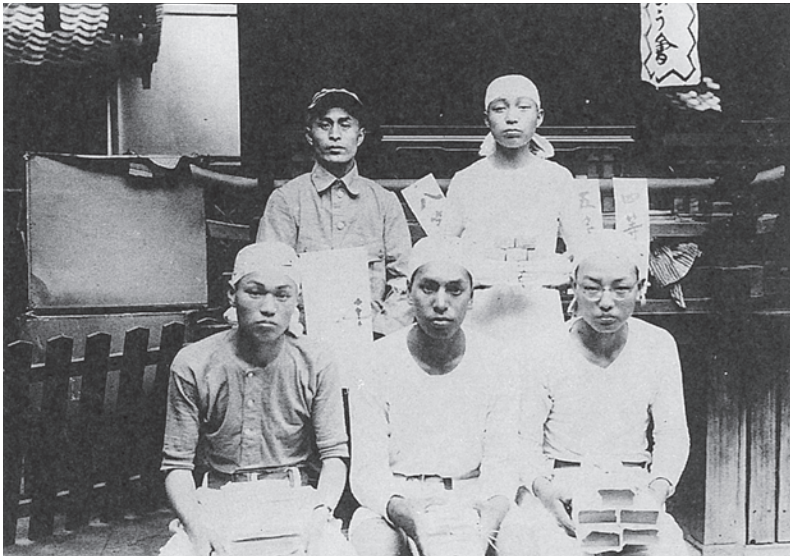
独立して五年後、漸やく苦しみから抜け出て、昭和十二年から好調に推移して二七年迄は安定していました。しかし二八年頃から倒産が続出し、中に大口があり、突然の事で経営困難にもなりましたが、天の助けか幸いに格別の援助して下さる方があり、経営は続行しており、其の中三三年に

東京支店を設置し、お陰で後日大きな助けとなりました。

倒産は三八年頃迄続き経営は依然として困難でしたが、不思議に別の援助者が出来て稍安定したのが四三年頃からでした。以上のような経営不振の時も、誰一人も退社する者もなく懸命に努力してくれました。現在役職員四八人中二五年以上五〇年勤続者十二名おり、今尚幹部の者が日々陣頭指揮し活躍しております。

顧みますと自分の知恵力、経験努力と云うものは些細なもので、目に見えない大きな神仏のご加護と云うものは絶大なもので、得意先も仕入先もご援助下さった方も又優秀な社員が授かるのも神のお導きと思います。永い苦労の体験の中に以上の事がつくづく感得する事が、多々あり感謝の毎日を過ごしております。

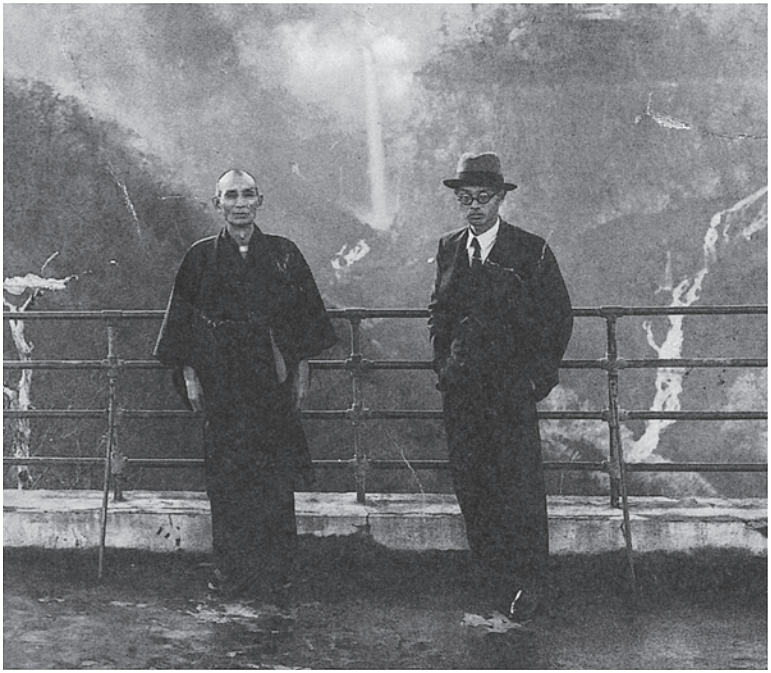
昭和六十年七月ライオンズクラブ通信より



大正13年６月８日　市内神社仏閣歴競争駅伝にて２着　於：少彦名神社　神前
（写真上左より）山中・28才／島田・18才／（下左より）伊達・21才／立花・20才／岩瀬・17才

昭和35年正月　道修町旧社屋前にて

昭和39年２月　銀婚式　健治(21才) 宏子(17才) 健次郎(55才) 保彦(19才)
光子(40才) 治世(13才) 恭子(23才)　陽子(９才)



昭和14年　奥日光にて(左)父乙松・65才

昭和33年　東京出張所開設のため松浦君、荒木君出発　於：国鉄湊町駅

昭和42年１月　第８回寿会（仕入業者の会）旅行、松山道後温泉にて

昭和42年１月15日　高松・金刀比羅宮にて（毎月参拝し、約200回続ける）

故 岩瀬健次郎会長を偲んで

香椎化学工業株式会社
代表取締役会長　原田 守男　様

先日岩瀬コスファの岩瀬健治社長よりお手紙を頂き、ご尊父の健次郎会長が八十三才の天寿を全うされてからはや五年になり、この期に偉大なる父健次郎さんの創業者としての「人となり」「エピソード」を書いて欲しいとの依頼でした。全く素晴らしかった父親を思う健治さんの心情には非常に感服しました。またその文面に「父親に親交のあった方々も数少なくなってきて」とあり、その数少ない中に私も入ってるわけで感無量の感がありました。

岩瀬商店と私との出会いは、私が終戦後中国より帰還し、昭和二十三年に縁あって中堅化粧品メーカーの研究室に入り、化粧品の研究生産に従事した事に始まります。必要な原料素材を岩瀬商店から購入しており、その当時の営業マンが青木さん、井上さん（現在は専務を定年退職）であり、この両者は無論岩瀬生え抜きの社員で生粋の道修町っ子と言った感じでした。そ

の後私は、昭和二十八年に同志と香椎化学工業株式会社を創設、カシー化粧品の商標で化粧品の製造販売をして現在に至っているわけですが、その間原料素材を多くの原料店から購入してまいりました。関西では業界最右翼の岩瀬さんからの仕入れがトップですが、それ以上に会長始め社長や前述の青木、井上と言った幹部社員と趣味の点でも意気投合したのが、ますます親交を深めるきっかけとなりました。先ず井上、青木さんとは麻雀仲間で月に二、三回は道修町の店で腕を競い、人数の都合によっては健治さんも加わって勝負をしたものです。そして健次郎会長とは囲碁友達というか碁敵というか、会長が亡くなられる前後は私が白番でしたが、まあ、いい勝負といったところでした。健治社長は業界でもトップの強さで、私が二目おいても負けが多い感じでした。

このように岩瀬さんとは商取引以外に碁、麻雀を通じてこの四十有余年楽しい時間を持ってきたものです。この間の交流を通じて感ずることは、健次郎会長の葬儀のおりコニシ株式会社の小西社長の弔辞にありましたように、「幾度かの苦境の中にあって、その度に持ち前の強靭な精神力と聰明な判断力とそして血のにじむような努力と情熱で、見事にのりきられ」、ある

いはまた「一方、外観は温厚篤実にして春風駘蕩の趣のあるあなたの温容は、おのずと人々の信頼と敬愛とを集められた」と述べられましたが、全くその通りのお人柄でした。健次郎さんと雑談している時、また碁で戦っている時でさえ、彼のおだやかな話し方、にこやかな表情からは事業への強烈な闘志はとても想像できない、とよく思ったものです。

昭和三十年頃から十数年の間、マリオから始まって、カップ、サルビア、テルミー、ベルマン、モナと中堅クラスのメーカーが引き続き倒産した時は、原料関係で大手である岩瀬さんも本当に必死だったと思うが、そういう状況にありながら、碁をやっているときでさえ会長は一切愚痴ることもなく全く、穏やかな表情で石のやりとりに終止し、こちらから鬱陶しい倒産関係の話を聞き出す気になれなかったのを思い出します。こういったメーカーの倒産の続く暗い環境の中で、本社社屋を六階建てのビルに改築されて、岩瀬健在を誇示されたのはさすがと感心したものです。もう一つ私の記憶に強く残っているのはカシー化粧品が発足して間もない頃、私の元在籍していた化粧品会社から出入りの業者に「カシーに物品を納入する業者とは一切取引を停止する」との内容の通達があった時のことでした。その際、岩瀬さんは原料は普遍的な

ものであり、注文があれば納入する義務がありますといって、通達を無視したとの話を別の出入り業者から聞き、改めて健次郎会長（当時は無論社長）の内面の強靭な信念を知った次第ですが、とにかく私の長い人生において、健次郎さん程の外柔内硬の人は未だに初めてだと思っています。

あれこれ追憶を書いていると、もう一度岩瀬さんの社長室で健次郎会長と碁盤をはさみ、健次郎さんの何ともいえない温顔をうかがいながら、石を並べてみたい思いがしきりです。

健治さん、偉大なるお父さんの遺業を更に発展すべく頑張って下さい。

惜しい人、岩瀬健次郎さん

オリックス株式会社
名誉会長　乾　恒雄　様

わたしは岩瀬健次郎さんと大阪東ライオンズクラブにおいて、永い、永いお付き合いをさせていただきました。また、わたしが関係する大阪市信用金庫においては、お取引先地区総代という重要な役割を、これまた永い期間に亘って果していただきました。こんな岩瀬さんを思い浮かべるとき、わたしはいまだに「惜しい人を失った…」というきもちでいっぱいになります。事業の社会で成功する人には、だいたい、既成の大事業場で功をなす人、独自で事業場をつくって成功する人とがあり、そのどちらも立派なものですが、だんだんと尠なくなっていくのが後者です。こんななかで、典型的な後者だった岩瀬さんを失ったのです。

岩瀬さんは京都の出、大正十年まずは十三才にして商売のきびしい大阪は道修町でご苦労の始まり、そして昭和六年二十三才で独立事業を興し、爾来、それこそ大不況、大好況、戦前、

戦中、戦後にありとあらゆる体験を積み重ね、世の中の酸いも甘いも存分にかみわけてこられた人です。こんな岩瀬さんですから、えもいえぬ風格があり、そばでみていて勉強になる人、まことに得がたい存在でした。温顔、謙虚、それでいていざとなると、おどろくような負けじ魂の人でもありました。深く神仏の加護を信仰し、周囲の人々との関係、とくに会社内の人々を実に大切にされたそうです。かとおもうと好きな囲碁では負けず嫌い、最後の最後まで勝負をする、息子さんが相手ともなれば、それこそ勝つまではやめないという微笑ましい話もききました。非常事態にあっては泰然として鍛えた胆ッ玉、社内に自分から動揺を与えるようなことは一切なかったそうです。

岩瀬健次郎さんのご子息は健治さんと申され、お父さま同様、わたしと大阪東ライオンズクラブで同じメンバー、大阪市信用金庫の取引先地区総代としても大いに活躍しておられます。「お父さまのよいところを大小洩らさずに受け継がれた人」というのがライオンズクラブでの評判です。なるほど、このお父さまなればこそが残していかれた傑作だとおもいます。

思い出

料亭 花外樓
代表者 徳光 憲 様

岩瀬健次郎さんのことに就いてご子息健治さんからお尋ねがありましたが、さて申し上げるとなると、どのようなことがあったのかと長く親しくお交際(ツキアイ)して頂きながら、思い出すのに戸惑うほど控え目な方で、いつも笑顔を絶やさない温かいお人柄でございました。大阪東ライオンズクラブのメンバーとして一九六八年ご入会され、一九九〇年九月にお亡くなりになるまで会員としてご活躍されておられました。

その間印象に残るのはいつも奥様とご一緒に親睦家族会に出席されておられたこと、また百貨店のお買物にもご同伴のことが多く、鴛鴦夫婦としての仲むつまじいお姿が微笑ましく思われました。岩瀬さんが亡くなられたあと、ご子息が同じ大阪東L・Cにご入会なさいました。ご子息にお目にかかり先づ感じましたのは矢張り温厚なお方でございまして、岩瀬さんのご家

庭の和やかな雰囲気が私達にも察しられ誠に羨やましいことでございます。以前東L・Cで第三副会長にご就任いただくようお願いしたことがあったようですが、ご辞退されたと伺っております。岩瀬さんは名誉職とかには余り関心もなく、淡々としたご生活を過ごされたお方であったように聞き及んでいます。囲碁がお好きで今橋クラブで楽しんでおられ、なかなかのお腕前であったようでございます。

東L・C以外には集英教育会役員としてもご一緒いたしました。監事をしておられまして、職員の松尾嬢にはいつもにこにこと穏やかにまた何かと暖かいお言葉をかけておられました。松尾さんのお話しでは、それでも会計監査の時には大変きびしい目で帳簿の一件一件と預金通帳の数字一つづつを丁寧に照合され、その計算の正確さと速さにはいつも敬服していたそうでございます。役員会のあとの食事ではよく乾盃のご発声をお願いしておりました。今でも懐かしいお姿が浮んでまいります。お仕事に対する誠実さ、お心の広さ、ご性格の優しさが将に岩瀬健次郎さんそのもののお人柄であったと思います。

岩瀬健次郎翁の印象

日本商業新聞社
代表者　山中　肇　様

昭和二十六年の何月であったかは忘れてしまったが、父（先代社長山中懸治）につれられ道修町の木造の社屋にごあいさつに参上したのがお目にかかった最初である。大阪の化粧品原材料商としては第一人者、二十三才という若さで独立し今日の大を築いた人だ、という説明をうけていたので、私なりに「大阪のド真中、道修町で勝ち抜いてこられたのだから、さぞかし、商売人然とした人だろうという先見」をもっておめにかかった。

部屋に入って驚いた。そこには学者が座っている。

「山中さんのご子息ですか、お役人をしておられたということですが、今後ともよろしくおねがいします」と、腰の低いごあいさつをいただいた。物静かな学者の印象である。それから四十余年お付合いをいただいた。といって、化粧品、トイレタリーメーカーの社長さんとのよ

うに、何かといえば押しかけ参上してお考え、或いはご意見をたたくというのではなく、何かの記念式典とか業界全体の行事のような時、年間二、三回しかお目にかかる機会はないのだが、その時には社長の方から見付けていただき、

「山中さんしばらくです。お元気ですか……」と声をかけていただいた。その意味では商売上での裸の付合いといった強烈なものではなかったが、人間として深いものを持っての四十年であった。

その四十年で一番印象に残ったのが、昭和五十六年ということだが、ある日、社長から電話がかかってきた。

「山中さん今年で創業五十周年を迎えるのですよ、だから何か記念行事をしたいと思っています。普通なら『五十周年記念式典』といったことで、お世話になった皆様をお招きして感謝の集いを開かせていただいたらよいのだとも思うのですが、何かそれよりも意義のあるものはと考えまして、記念講演会を開きたいと思うのですがどうでしょうか」という電話、素晴らしいことであり、誰に遠慮もせずおやりになればよいのだが、岩瀬社長のお気持はそんなえらそ

うなことをして……という心くばりがうかがわれ、そのあたりの気くばりが社長らしいなと敬服した。それからあと、社名変更、社長交替時の昭和六十年には中村桂子先生、東京進出三十年・会社設立四十年の昭和六十三年には軽部征夫先生、創業六十年の一九九一年には西野皓三先生をまねいての講演会が開かれている。創業者の岩瀬健次郎社長の人柄、意志が次代の健治社長にもうけつがれている。

今一つの印象は、昭和六十年に開かれた社名変更、社長交替の式典の社長のあいさつのなかにも出ているが「社名のコスファのコスはコスメティックのコスであり、ファはファインケミカル。ファーマシーのファで、これをとってコスファにした。……」にあるように、岩瀬健次郎商店は、単に化粧品の原料を原料メーカーから化粧品メーカーに仲介する問屋ではない、化粧品業界の発展に寄与するためには、我々は何をなすべきか、一にかかって新しい素材の開発にある。世界中に目を広げ、化粧品に採用できる素材を発見し、それをどう料理すれば化粧品の発展につなげるかを研究することである。その意味ではプランナーであり、仕掛人といってもよいだろうと常々おっしゃっていた。このため研究施設も拡充してと目を輝かして話された

のが印象に残っている。

率直にいって、この真面目な取り組みが業界の信用を得、業界での有力原料商の地位を築かれた要因だろうと思う。晩年お目にかかった時、

「山中さん足が弱くなりましてね」とおっしゃる。

「歩くことです。ＪＲの駅まで歩くことにされれば……」

「いや、朝の通勤では駅まで歩いています。帰りは坂を上らねばならないので車ですが」と社長らしい真面目な健康への取り組みのお話をうかがったのが、最後ではないかと思う。業界を真面目一本で生き抜かれたというのが印象である。

翁とのヨーロッパ旅行二〇日間

元 日本リーバー ビー・ヴィ
代表取締役社長　辻井 湧三　様

日本リーバ㈱の重要なお取引き先の社長でありました岩瀬健次郎翁に始めてお目にかかりましたのは、二〇年前の一九七五年（昭和五〇年）でありました。

大阪道修町の大店のご主人とは、どの様な人物なのか？

あの商売の厳しい道修町の中、一代で戦前・戦中・戦後を経て今日の会社にされたお人の雰囲気とは全然異なった、おっとりされた方、との思いがしたのを記憶しております。

この思いは、一九七八年、丁度一七年前の成田空港開港直後の六月中旬より約二〇日間のイギリス、フランス、イタリー、ドイツ各国のユニリーバ社訪問時に、正に健次郎翁の人となりを強く印象づけられたのがこの旅行中のことでした。

健次郎翁、加藤社長（当時東洋ビューティ社長）岩瀬保彦、現東洋ビューティ社長御夫妻と

小生の五人で各国のユニリーバ社関連の本社・工場・研究所を訪問、その間にロンドン郊外のブランデボンでのオペラ鑑賞、夜中一時過ぎにホテルに帰ったり、早朝よりのライン河下り、ハンブルグでは深夜の裏町見学等、欧州に於ける仕事とプライベートの時間の過し方を見聞きし、日本でのビジネス、私的生活の比較と、ご自身のお話しと、ご意見をお聞きし一挙に翁のご苦労と人となりを知ることが出来、誠に有意義な時を過した次第でした。

「人を常に温い気持で見ること」

「努力して、しかる後、神の庇護を祈る」

「人・部下を信じ協力してもらうこと」等々

数多い翁の言葉には、決して大きな言いまわしなしでの過去の話、信じていることの話と、時にはワインをかたむけながら淡々とされていました。

翁は旅行中大変食欲も旺盛、普段は余り御酒は召しあがらない翁が、各国の良いワインを昼も夜も大変エンジョイされており、健康も上々でその行動力には皆で感心したものでした。

私としても数多い欧米旅行の中で大変想い出深い旅となりました。

健治さん、保彦さんの曰く、「偉大すぎる親父さん」は、良き親父さんであったし、私にとっても又多くの人々にとっても、そうであろうと存じますが、今でも偉大な親父さんであります。

今、当時のアルバムを右に見ながら、往年の翁のすばらしい笑顔、ワインでの乾杯の姿、尽きることない翁との話、足跡を想いだしておる次第です。

父は毎春…
庭の桜が咲くのを
とても楽しみにしていました
亡くなる年の春も
最後の桜の花を
いとおしむ様に
桜の木の下に椅子を
だして眺めていた姿が
今も想い出されます。

大地に静かに深く
根をおろして
見事に美しく
優しく咲く
桜の花は……父の
姿そのもの
だった気がします。

佳世子

粧原会の思い出

進栄化学株式会社
取締役会長　柊木　進　様

明治四一年京都府に生れられ、昭和六年九月に勤務して居られた株式会社小西儀助商店より独立され、昭和十二年弟の光治郎さんと宮内邦造さん、それに最も若手の井上さんと青木さんが加わり、高津六番町へ店を移して大いに発展されたと聞いています。昭和十六年には現在の今里の土地現在㈱東洋ビューティのある処、又茨木の土地今の屋敷、又南の方では羽曳野の大きな土地を買われましたが、昭和二二年の農地法により不在地主として安い公定価格で強制的に買い取られたのであります。昭和二三年道修町二丁目五一番地、現在一丁目七番十一号に株式会社岩瀬健次郎商店を設立され後改名され、岩瀬コスファ株式会社となったのであります。社運は益々隆盛で現在に至っているのであります。

岩瀬さんは早くから原料薬品の重要性を称えられ、同業者に呼びかけて近畿化粧品原料協会

の組織を昭和四九年四月に設立され、会長として大いに化粧品原料について研究されたのであります。

その功績に対して昭和六三年五月三日憲法施行記念日に、衛生関係功労者として大阪府知事より表彰されたのであります。平成二年九月六日他界される迄、十四年間会長として協会発展のため尽力されたのであります。

粧原会は一部親睦をはかる会でもあるので、年に一回親睦のため懇親旅行をしたのであります。その時のことが思い出されます。岩瀬さんは至って真面目な方であるかたわら又粋人でもあり、その様な席では声のよい上品な端唄を聞かされました。

粧原会二十年のあゆみの本の中の19、20頁に第一回湯の山温泉、ホテル湯の本。第十六回湯村温泉、井筒屋の写真を見るにつけその面影が偲ばれます。

岩瀬健次郎氏を偲ぶ

元 株式会社 大阪銀行
頭取 八浪 暢生 様

この原稿の依頼を受け、岩瀬さんがお亡りになって五年と聞き、時の経つのゝ早いことに驚くと共に、あの温顔が目に浮びそして静かに語りかけてこられる様子を、昨日のことの様に懐しく思い出します。

私の尊敬する人生の先輩、岩瀬さんと親しくお付き合いをさせて頂いたのは、私が昭和五十一年、大阪東ライオンズクラブに入会した時からで、以来お亡りになる平成二年まで約十五年間のことであります。

なおライオンズクラブのお付き合いより以前から、岩瀬さんの経営されておられました株式会社岩瀬商店（現岩瀬コスファ）は、私の勤務致していました大阪銀行の船場支店の大事なお取引先であり、取引を通じて良く存じ上げていました。

大阪東ライオンズクラブは、現在大阪府下に約一四〇クラブあるライオンズクラブの中で、二番目に結成された歴史と伝統のあるクラブですが、その特徴は燻銀（いぶしぎん）といわれ、風格と気品を備え、外面は華美や目立つことなく、地味にと云うのが古くから伝統となっているクラブです。

私は岩瀬さんは正に、この大阪東クラブの象徴的な方であったと思います。クラブの諸会合や奉仕活動にはいつも率先して参加され、そして何時もにこにことして温顔で、もの静かに話をされるお姿は、今も目に浮び、私たちの行方を示しておられる様な気が致します。

一方、銀行のお取引先としての岩瀬さんは、船場の伝統を現代に見せる様な堅実そのものの経営ぶりで、立派な業績を上げておられたのが、何より記憶に残っております。

そして会社の節目の記念日等には、お取引先を大勢集められて講演会などを行われていたのを思い出します。銀行のお取引先の数は多いのですが、早い時期から企業の文化活動を取り入れていかれた先進性には感服した次第であります。

岩瀬健次郎さん亡き後、ご子息の健治氏が後を継がれ五年、会社の経営も、大阪東ライオン

ズクラブの方も、立派にやっておられますことを、亡き岩瀬さんのみ霊にご報告をしたいと存じます。

故 会長様をお偲びして

三木化学工業株式会社
代表取締役社長　三木 琢彌　様

私の好きなカレンダー心のふるさと名言集の今日の言葉は〝誠実がなくなると　商いはひからびる〟西田天香先生の言葉である。それを読んで想い起すのは故岩瀬会長の言葉である。いつも控え目で物静かに〝和と進歩〟を唱えられ吾々を導いて頂いた懐しい会長様、巨星墜つのご逝去から早や五年の歳月が過ぎ去らんとしている今日、二代目社長様が亡き父を偲び、何か想出を残したいとのお言葉、私なりにお世話になった四二年間の想出を記させて頂きます。

嘗って故会長様をお偲びして寄稿しました前文と重複するかも分りませんが、私が一年間内平野町の石井清商店で見習を終えて、サラシミツロウの製造に志を立てましたのが昭和二三年でした。物資の無い頃で一ケ月のお給金が二〇〇〇円でした。ミツロウがキロ一三〇〇円、モクロウが一二〇〇円という時代で、サラシミツロウは皆無でした。幼稚な設備で作った蝋を初

めてお店に持って上ってご批判を仰ぎに行きましたところ、先代社長様と光治郎様から一〇〇kg納めなさい、と言われて徹夜で作ったものでした。蝋皿が無いものですから茶椀蒸しの椀やら、深目のお皿を使ってどうにか一〇〇kgの製品を作り上げました。キロ一七〇〇円で現金を頂いたことは未だに忘れられません。そして銘名して頂いた製品名が椀型サラシミツロウでした。それが仕事始めで爾来四七年間この道一筋に続けさせて頂いております。

手造りの時代から早く脱却して機械化することに専念していた私は、事ある毎にご相談し、新しく出来た製品はその都度見て頂きました。我が事のように喜んで頂いたことも今から考えますと夢のようでもあり、脳裏から離れません。

昭和四九年五月に近畿化粧品原料協会が設立されましたが、名誉会長柊木進様外諸氏とともにその必要性を解かれ、随分とご苦労なさって初代会長として、大所高所からのご教示を頂いて、会の発展に大いに寄与なされてこられましたことは周知のことであります。平成七年一月には近畿化粧品原料協会二〇年のあゆみとして、立派な小冊子が二代目会長によって刊行されました。初代会長に負けず劣らず立派に会をリードされ、会員一同賞讃いたしているところで

す。

長い間、公私ともにご指導を頂き、転(うた)た懐慕の念にうたれご薫陶を賜りましたことを感謝いたしております。在天の霊を仰ぎ、仏法の世界に生きる貴殿を追悼して止みません。いくら時代は代っても、スピリットは永遠であります。

ご冥福をお祈りいたします。

会長との思出

元 岩瀬コスファ株式会社
専務取締役　井上 四郎 様

会長との出合は昭和十二年十一月高津六番町のお店に乙松様に連れられて、会長はまだ三十才の若き実業家と云った印象が残っている。当時お店は大変多忙で皆よく働いたものだ。例えば店の前の道路で日が暮れるまで、大きな二石のドラム罐から一日に何本も石油罐に小分けをしたものだ。いつも大将が頑張るので、皆も一生懸命働いたものです。

岩瀬さん、ご主人、大将、オヤッサン、健チャンと五つの名前を持って頑張った大将です。私や青木君は大将大将と呼んでいました。その後、オヤッサンになり社長、会長と変って来ました。

大将は暗算が得意だった。当時仕事が終ると「井上、算盤を持ってチョット来てんか」その日、その日の売上伝票から暗算で利益計算を夜おそくまでやり、足算を置されたものです。月

の半分もすると、「お蔭で今月もこれでご飯がいただける」とよく云っておられたものです。

大将は景気が良かった時代でもオゴルことなく、商売の資産として昭和十六年には今里や羽曳野を始め、何個所も土地を買求めに行ったものです。

昭和十九年暮れ、私が入隊する時には百万長者の仲間入りが出来たと云って、心強く激励され元気でお国の為に尽し帰って呉れと、大将の嬉しそうな顔は今もわすれません。

大将は勝負事は好きだった。高津六番町の有志を集め高六野球倶楽部を結成し、天王寺公園の大会に出たものです。大将はサードを守り三振王のホームラン王だった。リーダとして、一番不得手な朝も早くから生玉公園に練習に行ったものです。

又将棋や囲碁が好きだった。特に囲碁は当時から先生に習っておられ強かった。麻雀は弱かった。よく小遣いをもらったものです。小西の若い人達も小遣いほしさによく通って来たものです。最近はどうやと尋ねられ「さっぱり暇でっせ」と返事でもすると「井上、だれも忙しくはして呉れへんで、自分がこつこつ廻って努力せんと忙しくはならへんで」と教えられたものです。

昭和二十七年頃から倒産が続出し、会社がピンチになった時でも、親父さんは社員には一切弱音を見せなかった。金は天下の廻りものだ。井上そう心配するなと良く激励されたものです。又この業界で育ててもらったのであまり目に余る事はせん様に、業界や同業者の方々に後ろ指をさされん様にと良く云っておられた。

近畿化粧品原料協会のお世話をする事になった時でも、いつも控え目にやってやと会長は云っておられた。

私にとって親父さんは育ての親であり、先生であり、主人であり、半世紀にわたりお世話になり感謝の念で一ぱいです。思出も多く到底書き尽くせるものではありません。

特に親父さんは若い頃から親兄弟や家族をほんとうに大切にされ、又信仰心の厚い人でした。

会長の冥福をお祈りします。

故 岩瀬健次郎氏を偲んで

山川貿易株式会社
代表取締役社長　栗山　博　様

歳月の経過は早いもので、平成七年八月二十八日、岩瀬コスファ株式会社の岩瀬健次郎会長の五年祭が施行されるとのことである。故人を偲び想い出をということで、家の棚から一冊の本を取り出した。一冊の本は、かつて親しい友人から贈られたもので、友人の知り合いの和田良介氏が創元社から刊行された『ある船場商人の遺言』というサブタイトルのついた『扇子商法』という表題のエッセイ集である。

生涯を通して私にも忘れ難い何名かの先輩があるが、故岩瀬健次郎会長を偲ぶとき、いつもこの一冊のエッセイ集とダブって脳裏に去来することが多い。一人は八十歳になってもなお頑張って更紗に人生をかけた船場商人の生き方であり、一人は八十二歳で逝去されるまで道修町の真ん中にあって、生え抜きの薬品商人でありつづけた故岩瀬健次郎会長。この二人の得難い

人材から共に深い感銘を受けたわけだが、私自身同じ仕事に従事してきた関係からより親しく岩瀬会長に接することが出来た。

戦前戦後を通して、六十有余年の永きに亘って常に仕事一途に生き抜いてこられた岩瀬健次郎会長。いつも普段は無口でいて、それでいて不思議と周囲の人々に温かみをあたえる人柄。私は昭和三十八年三月に東京で山川貿易株式会社を設立したわけであるが、以来、三十年以上の永きに亘って常に信頼と協力の下に代理店関係を維持して今日に至っている。私自身どれほどこの絶大な信頼関係の維持に励みとなってきた事か。

故岩瀬健次郎会長の唯一の趣味は、囲碁であったと記憶している。会長の晩年、大阪を訪れる折々、碁を囲むことを楽しみとする様になってきた。岩瀬会長は碁でも私の大先輩であり、私の如き初心者を相手にしていても常に変わることなく、謙虚に親しげに接していただいたことは今も忘れ難い想い出となっている。御長男の岩瀬健治現社長や香椎化学工業株式会社の原田守男会長等の錚々たる高段者と、親しく碁を囲む機会を得ることが出来たのも会長の人柄の賜物である。

『栗山さん、折角碁をお好きになられたのですから、碁盤はけっして高価なものでなくても素性に良いものをお持ちなさい。』というアドバイスは、普段無口な会長にしては意外とも受けとれる言葉であるかもしれないが、私への何にもまさる励ましになったことを付言しておく。いつもそれを口にしているせいかもしれないが、私が初めて入段した際、会社の相川専務が私のために明治時代の榧の碁盤にそえて、藤沢秀行名誉棋聖の書を贈ってくれたのも会長のお陰かもしれない。

ひたむきに人生を生き抜き、常に己には厳しく、決して途中で妥協することをしなかった会長。

死して後歳月を経過すればするほど、故人への印象はより深まり生涯を通して忘れ難い人となってきた会長。貴方はこのように得難い先輩の一人でした。

創業者 故 岩瀬健次郎師 五年祭にあたり

東洋ビューティ株式会社
相談役（元 代表取締役社長） 加藤 司郎 様

一九三一年若き日より独立創業者として、事業経営に人生のすべてをさゝげられました故岩瀬健次郎師の業績を偲び、こゝにその遺業の数々と教訓、導き下さったこと等述べさせていたゞきますことは、筆舌に尽しがたきものがございます。

はや五年祭を迎え創業者「師」の存在価値の偉大さを、今にしてまざまざと深く脳裏に刻まれた想いがよみがえって参ります。

生涯創業者として旺盛なるチャレンジ精神をもって、事業繁栄の基盤を築き上げられました。新規事業に対する投資計画は、いつも経済のよくない景気のドン底時代にするという、経済的余力をもち、先を透視して経営の転換をはかられました。誰にも出来得ない決断が、その後の経緯で苦難を乗り越えて、必ず成功に導かれました。これは何たる業でしょうか。兄弟会社で

ある東洋ビューティ㈱の創業者でもある「師」は、一九四一年太平洋戦争突入寸前、景気ドン底時代に発足、事業半ばにして経営の構造的改革が急務とお考えになられ、これを決断。将来性ある企業へ脱皮すべく、小生に「こゝで骨をうめてほしい、全面的におまかせする」と言われ、その時何んとキツイ言いようと感じました。又その反面、人を信じての言葉だと思いなおしました。私も生涯をかけて、繁栄の基礎づくりに力添えができましたこと、洵に感慨深きものがあります。

話は時間と空間の経過はありますが、「師」との出合は、昭和三十年代のことで「もはや戦後ではない、敗戦からすでに日本は立ち上った。回復を通じて成長は終ったのだ。今後の成長は近代化によって支えられる」と政府発表があった。この頃丁度「師」は、道修町の古き経営から脱皮をお考えになり、小生と近代化経営学なるものについて、当時何回となく討論した記憶があります。この件に関して、大変熱心にメモをとられていたお姿には、深く感銘いたしたものでした。

又ある日、幾多の苦難に遭遇され、実に不可思議なお話を耳にいたしたことがあります。そ

れは信仰により「神」に助けられたことでした。「神」とは畏れ崇める神秘的意味又「かみ」は身近に考えるものだ。「かみの道」は、すめらぎの道であり、「みおやの道」でもあると言われました。「神がみ」を身じかに感じておられました。大黒さまの打手の小槌の話「初商いには、天秤を小槌で打つ、その打出の小槌によって、何なりと欲しい物が出て来るが、それは各自の智慧袋如何によるもの」とのこと、知識も大切だが最終的には智慧を「神がみ」から授けられるものだというお話でありました。

私もこの実践訓を生かすことにいたしました。揺らぎもない信仰の心は、単調なるものではなかった。途方もなく強烈な信仰心に魅かされ、小生もご縁あって、事業繁栄に活躍ができる場を与えていたゞき感謝申し上げております。おゝくの煩悩苦悩を抱くわれらは、信心が肝心なのですと感じております。人の生涯は、どう生き、どうあゆんできたか、振り返ってみて、満足な足跡、導かれ、導き、「生、働、老死」のみちのりは、どなたにもあゆまねばならぬ途であります。「師」は天寿を全うされました。「祓い給え、浄め給え、幸（栄）え給え」とお祈り申し上げ筆をとじます。次なる十年祭にもご参詣が叶いますよう願っております。

コーヒーの
大好きだった父…
今も コーヒーの香の中に
優しかった
父の姿が見えてきます。

隼子

同じ星の下に

元 上田株式会社
代表取締役社長　上田 師郎 様

会長を偲び社長夫人佳世子の父としての思い出を述べさせて頂く光栄に感謝致します。私は今年一月満八十才を迎えました。

会長と同じく滋賀県の出身であり、二十三才で独立致しました事、会長創業時代と同じ苦難の道を歩んだ事、五人の子供に恵まれ十五人の孫の居ります事、事業を軌道に乗せ乍ら夫婦円満で子供や孫の家庭教育を怠る事なくやって来た事等に、会長と奇しくも同じ運命の星の下に生れた一人であります。

会長は社員に対し厳しい中にも慈悲寛大に満ちた方でありました。創業時の社員の方々が定年迄お勤めになり今日、会社発展の原動力になって居られる事を思います時、中小企業の経営者として他に類の見る事の出来ない偉大な方でありました。私は自己を省り見て恥しい思いを

致して居る次第であります。

又娘佳世子に対しましては、我が子様に優る慈愛を頂き、将来社長夫人としての厳しい教育と躾をして頂きました事、父として感謝申し上げる次第でございます。

小冊子の創刊に当り短文でございますが会長の人徳を偲び寄稿させて頂きます。

思い出

デザイナー
林　義雄　様

社長（故 健次郎氏）の五周忌を迎えられるにつきまして、思い出を書く様にとの御使命を受け、はて！何から書かして頂いてよいのか、文章の下手な私としましては苦手中の苦手の事で困りました。永い年月、変りなく賜りました御厚情の数々、感謝の事柄ばかりです。今は亡き社長のお人柄の良さ、暖かさには心より感銘いたしております。

なかでも何より心に深く感じましたのは、社員の皆々様や出入の方が誰一人として社長の陰口を言っているのを聞いた事がありません。勿論私も同じ年令であり、乍ら何事につけても遠く及ばない点を反省させられ教えられました。

二十年ほど前の事ですが、会社の出入の人々を相手に会社の近くのグラウンドで野球の試合をした事がありました。社長は一塁を守られ、少年の様にプレイを楽しまれました。不断と違

う思いがけない一面を拝見し、非常に嬉しく感じた事でした。

今御存命であればもっともっと深いお話しをお伺いする事が出来、御子息様方のご発展の御様子をどんなにかお喜び頂ける事かと存じます。

社長、せめて九十才まで生きて頂きたかったと切に思います。いづれ私も後よりまいります。

その節は又よろしくお願い申します。

厚い御芳情の程を深謝し、有りし日のお人柄をおしのびいたします。

戦後五十年

元 岩瀬コスファ株式会社
経理部長　高谷 政生　様

昭和二十年の敗戦により戦后の大混乱の最中、大阪の中心街を始め殆んどが空襲に依り焼け野が原となり惨々たる状況となりました。原材料も焼失し皆無の状態となり、品不足は異状な高騰に変化し闇取引の横行の時代に突入致して参りました。当時の品物は軒を並べて三倍～五倍と、幾等でも売れる狂乱の毎日でもありました。

併し会長の方針は暴利を貪らず絶対に大儲けを慎しみ正道を歩むを、信念とされて居られた様でした。一部の人々は時には歯痒い思いをしたらしく、後々迄話が残りました。

昭和二十二年会長の元勤務先のコニシ株式会社の先代社長様の格別のご支援により、大阪市東区道修町二丁目の土地を借用させて頂きまして、其処に居宅兼事務所、倉庫等を新築する事が出来ました。

昭和二十三年七月に法人組織に改組し株式会社岩瀬健次郎商店とする

昭和二十六年に新興化粧品メーカーの株式会社マリオ（本社京都）に倒産の風評が三和銀行より知らされる。併し当時同メーカーの工場が新築中であり、社内に於いても其の評を打ち消されました。日ならずして事実となって倒産致しました。最大の倒産で驚天動地の気持ちでありました。

右に依り第一に売上の減少に始まり、次で既に割引いて居る手形が不渡りになり、其の手形の買戻しに狂奔したもので之れが地獄の苦しみの連続となりました。先のコニシ株式会社の先代社長を始め数々の方々のご支援により、最悪の事態をくぐり抜けられた事を感謝致して居ります。

後日会長に倒産の心境をおたづねした事がありましたが、其の折の会長のお言葉程強烈なものは無いと今以て忘れ得ません。

「倒産により大変な被害を受けた場合でもこれをいましめとして、当方でこれを支え相手先に何等御迷惑をかける事のないのが最高の喜びとして居ります。」

昭和三十三年十月に東京に進出し東京営業所を設置する案が出ましたが、社内で意見が真っ二つに分かれました。不賛成派は「戦後十三年余も経過し世間も世情も安定、今更進出しても割り込む余地も全く無く、経費のみ増加して其の計画は良い事なし」との意見で、全く其の通りにも思えました。併し賛成派は「今度の進出の実行せずして答が出るのか伺いたい。商売と言うものは勢いがなくては成功も覚束無い。」

賛成二、不賛成二となり結論は会長の決断に委ねられ、東京進出が此処に決定した次第であります。

倒産の嵐は昭和四十数年まで続き、だんだん静かになりました。

昭和四十三年本社ビル完成する

大阪市中央区道修町一丁目七番十一号

昭和六十年社名変更する

岩瀬コスファ株式会社

最後に戦後五十年を振り返って見ると前半二十有余年苦しみの連続、後半東京進出を契機として穏やかな上昇気運にめぐまれ、会長を中心にして社員団結して「和と進歩」をモットーに励んでまいりました。今後も前進あるのみを祈って止みません。

人にやさしく、自分にきびしく

天理教 河浜分教会
会長 笠木 孝義 様

昭和二十七年、私が天理教校専修科二年のときでした。岩瀬健次郎様が修養科へお入りになり、まる三ヵ月、布留川のほとりのもとの南大教会信者詰所でご一緒に生活いたしました。いまから四十二年まえのおなつかしい思い出です。

若かった私がおてふりの先生で、熱心にお稽古されて、年もお立場も全くちがうのに、「先生」と呼んで丁重につきあってくださいました。きくやの饅頭や、珍しい菓子をいろいろさし入れていただきました。

修養科を了えられたとき、私と同期生の人々を道修町の自宅にお招きになりました。ご馳走をいただいてから町に出て、見物をしたり、お茶を飲んだりしてひと晩泊めていただきました。泊まった部屋の窓から三越百貨店のネオンサインが鮮やかに光っていたのを、私はいまもはっ

きり思い出しています。

丹陽の世話人の御命をうけてからは、再び親しいおつきあいがはじまりましたが、岩瀬さまは、いつもおだやかで丁重にあいさつしてくださって、ご晩年に南丹布教所を開設されるについては逐一ご相談を受けました。とても印象がふかくて、思い出の数々を私は生涯忘れることができません。

私の好きなサトウハチロウの詩に、

「幸わせと歩調あわせて歩きました。

ひとにやさしく、自分にきびしく、

ふたりで歩けば、長い道程もたいくつしない」

という詩があります。岩瀬さまのお人柄とお心を偲んでいると、私はなぜかこの詩のイメージとかさなって、お慕わしいかぎりでございます。

囲碁の師

元 東洋ビューティ株式会社
代表取締役専務　三間　勤　様

神戸の横山様の御紹介により、私が縁あって岩瀬健次郎様（以下社長と書きます）のもとへ住込みとして御世話になることになったのが、昭和二十四年の春、それから二十八年の春までの満四年間、道修町で一年（現在の岩瀬コスファ㈱）、今里で三年（現在の東洋ビューティ㈱）部屋住みの身として勤めさせていたゞきました。その間、直接仕事については社長より教えを受ける程の立場でもなく、右も左も分らない新入生みたいなものですから、諸先輩の方達に教わり、だんだんと仕事を覚え馴れていったのを思い出します。

囲碁の方は直接御指導をいたゞき、碁を習ったことが自分の人生にとって、如何に大きな財産となったかを思います時、今更ながら本当にあの時よく教えていただいたと感謝の気持で一杯です。当時社長は関西棋院のプロ棋士、出雲先生に指導を毎週受けておられ、三段の免許を

持っておられました。初めは当然井目（対局者の力の差を調整するため九ツの黒石を置く）から教った訳ですが、打ち終ったあと必ずその碁について問題点を指摘され、定石を含めての打ち方、受け方、局面に於ける考え方等々、数えればきりがありませんが、熱心なる御指導をいたゞき夜が明ける頃まで打っていたゞいたことも再三ありました（主に土曜日の晩から教りました）。

御陰をもちまして比較的早く、二目では少し歩が悪く三目では私の方が良いと云う処まで上達しました。弱い間は分らなかったことですが、この頃になり、囲碁を通じて社長の立派な人格、又堅実な性格、奇手に走らない真面目な人柄を知ることが出来たのです。『碁はその人の性格が現る』と申します。碁を打たれる人はよくお分りかと思いますが、相手によって特に弱い相手には調子を加減したり、又当然打たなければいけない所を相手が気がつかないだろうと、手抜きしたり、もし相手が受け損じたら、もうけものと云う様な打ち方をする人があります。社長はいかなる場合でも、いかに下手（自分より実力の弱い人）の相手でも良く考慮された上で、これが最善の手なりと信じた上で、一手一手慎重に打ち進められ守るべきは守り、攻める

べきは攻め、隙をつくらない、堅実な碁に徹せられ、相手が受け損じればと云う様な手は決してありませんでした。

私も最近碁を打つ機会がしばしばありますが、昔社長から教えていたゞいた碁の精神を手本として、社長の目指された格調高い碁に一歩でも二歩でも近づきたいと念願している今日、この頃です。

茲に岩瀬社長の五年祭に当り謹んで御霊前に文章を捧げ、長年にわたり賜りました御恩に対し心から御禮申上ますと共に、永遠（とわ）に私達をお導き下さいます様御願申上げます。

めがねの奥から
いつも　暖かく
優しい　父の
瞳が　私達を
見つめて　いてくれました
亡くなった　今も……
巡る　季節の
日々の中に
時には　厳しい父の…
時には　慈愛に
満ちた　優しい
父の　眼差しを
感じます

佳世子

岩瀬健次郎会長を偲ぶ

岩瀬コスファ株式会社
常務取締役　松浦　澄　様

会長と初めてお目にかゝったのが一九五八年四月の入社テストの面接の折でした。穏やかな口調でやさしく丁寧な御言葉で質問されて、おやさしい御人柄がにじみ出て居られ強く印象に残って居ります。

入社以来会長に従事して三十二年余りの間、一度も大声で叱られた事は無く仕事に失敗しても、逆に励まして頂き、心優しいお人柄に触れた事はかぞえ切れない位再三経験致しました。

そんな時、大変嬉しく思うと同時に、会長に心配をかけずに、頑張って御期待に添わねばと感じつつ、その都度、その時の御指導のお陰げで、今日の私が有ると申すのも過言ではない様に思います。

一九八二年三月私の父が亡くなった時の事ですが、会長が葬儀に御列席を賜りましたが、そ

の折に忘れ得ぬ心のお優しい御人柄に触れました。

私達親族が御会葬頂いた方々に答礼を行う時、当然の如く私の横に立礼されまして一人一人に御礼を言って頂いた事は、一生涯忘れる事のない想い出です。

共に喜び共に悲しみ、私達社員全員、誰れに対しても別け隔てなく、慈愛に満ちた会長には感謝する事ばかりでした。

父親の如く育て、御指導頂いた会長に対し私の胸の中には『心の父』として終生宿って居ります。

又、近畿化粧品原料協会の発足以来、会長職として、終生御努め賜り、業界の向上に御精励して頂き、岩瀬コスファの発展に、日夜御苦労をおかけした事に対し、心より重ねて深く感謝申し上げます。

会長岩瀬健次郎様、天国よりいつ迄も私達を見まもって御導き下さい。

囲碁と会長

化粧品技術コンサルタント
栗山 政彦 様

私は戦後まもなく大阪に出てきて、伯父の会社テルミー化粧品に勤めました。化粧品の原料の仕入を専任していた関係で、毎日のように当時の岩瀬健次郎商店へ出入りする様になったのですが、会長（当時の社長）とは直接お会いする機会は少なく、お噂で囲碁は三段と聞いていました。私は当時二級程度で会長とお手合せなど、とても考えられませんでした。その後私は定年になり仕事から一時離れていましたが、或る日久し振りに岩瀬コスファにうかがった時、会長とお会いし囲碁の話からお手合せしていただきました。その時から約二年半程、多い時は週の内二日か三日、夕方になれば会長室に通い囲碁を楽しませて頂きました。

さて囲碁の内容ですが、初め私が会長に三目置かせて頂きスタートし、お陰で私が次第に上達して時には先で打てるようになったのです。時にふれ「本当に強くなりましたね」と褒めて

いただき、私も嬉しくなって熱中しました。会長は大変几帳面で、毎回の勝敗表を自分で基盤の裏に貼って下さいました。会長の囲碁は丁寧で時間がかかり一局平均一時間半以上かゝります。そこで会長は対局時計を買ってこられ申し合せて使う様にしたのですが、会長の時間は少しも短縮されず、特に持時間を決めてないので時計を使う意味がなく、形だけで両者時計のボタンを押したり押さなかったりしていました。

ある時私が押すのを忘れていて、会長が私に「栗山さんの方が打つのが遅いですね」と云われ思わず笑ってしまいました。時々井上さんや五十嵐さんが戦況を見にこられ、又健治社長（六段）が色々と指導して下さいました。

ある日突然、会長から電話を下さり「残念ですが身体の調子が悪いので暫くお手合せ出来ません」との事でした。私が「お体の方が大切です。お元気になられたら又何度でも出来ますから」とお話したのが最後になってしまいました。お優しい人柄で何時もにこにこ迎えて下さった会長、私の生涯の思い出となりました。

不思議な出逢い

元 東洋ビューティ株式会社
工場長　大上 治三郎　様

人間として此の世に生を受け、人様との御縁と申しましょうか不思議な出逢いで、その人の運命をも変えるものと私は思っております。私は昭和の初期、能勢の田舎で生れ育ち、戦中軍関係の会社に就職、終戦と共に叔父経営の会社に就職致しました。暫くして信頼しきっておりました叔父が不幸にして病に倒れ、間もなく私も胸部疾患で失職し、二年半余の養生生活を田舎で送りました。その後長姉のすゝめで天理教の修養科生活を三ケ月御地場で過しました。そこで今は亡き岩瀬会長様との出逢いがありました。一ケ月共に詰所生活をさせて頂き、会長様は先に卒業されました。そして三ケ月後の講習の折に、偶然にも三週間寝食を共にさせて頂き受講させて頂きました。御蔭様で無事終了させて頂きました。上々級丹陽ということで、親しくして頂きました上に、御言葉に甘えさせて頂き仕事を御無理に御願い致しましたところ、心

安く御受け頂きましたのが会長様との御付合いをさせて頂きました出発点でした。昭和三一年七月二五日より平成元年八月二一日付で事情により退職させて頂くまで、丸三三年余り御世話になりました。〝古くから諺に十年一昔〟という言葉が御座居ますが、三昔余りの長い間私の様な者を御世話下さいました今は亡き会長様に、唯々感謝の念で一杯で御座居ます。霊様に心から御礼を申し上げる次第です。

此の長い歳月、いつ御目にかゝりましても心優しい応対と励しの御言葉を頂きました。又此の長い道中にはいろいろの事もありました。私の不注意、失敗の為に会社の信用にかゝわる様な御迷惑をおかけした事もありました。そんな中いつも優しい目差(まなざ)しで見守って下さいました。そんな中で唯一度、私の不注意のために会長様より注意御叱りを受けた事がありましたのが、初めの最後でした。三三年余りの間、いつも冷静に受け止めて御指導下さいました。今日私共家族のありますのも亡き会長様の御蔭と唯々御礼を申し上げます。平素は奥様皆々様に御世話になって居ります。皆々様御元気で頑張っておられます。私も元気で頑張っております。霊祭御ゆっくりと御憩み下さり御見守り下さいます様、御願いを申し上げまして御礼の言葉とさせて頂きます。

岩瀬会長の思い出

東洋ビューティ株式会社
専務取締役　宇治　義隆　様

岩瀬会長が死去され早くも5年の歳月が過ぎ去ったのですが、今、振り返ってみますと昭和三二年四月に現在の東洋ビューティ㈱の前身である寿化学工業㈱に入社し、化粧品の何たるかも全然分らずに、製造・試作といった作業を先輩にならって繰り返して居りました。そして凡そ四年半後の昭和三六年夏、岩瀬会長より突然に「貴方の給料は今月より岩瀬健次郎商店より支給しますので承知してほしい」と云った様な事を云われました。この時に随分種々な話をされたという記憶はありますが、何を話されたかと云う事については今はもう殆んど憶えていませんが、「絶対に辞めて貰っては困る」と云う事を再三に亘って云われたのだけは、記憶に残って居ります。事前に何の連絡もなく、突然に、全く或る日突然に自分の職場が変っていた、いや変らされていたのです。その時の驚きと戸惑いの入り混じった自分の感情は、何とも云い現

わす事の出来ないものでした。

それから凡そ半月の間、自分の気持を整理する為に友人、知人を尋ね歩いた揚句に、ようやく自分でも結論を見出したのです。一つには、乗りかかった船故にとことん乗ってみようという事、もう一つは、この機会に何とか商社の仕事を憶えようという事でした。丁度この時期セールスエンジニヤーとか、エンジニヤセールスマンとか云う言葉が流行った時でもあり、自分自身どこ迄出来るものかやってみようと決断をした時でもあります。

又、昭和四八〜四九年頃だと思いますが、縁があってハンブルグ Budehude の工場に行きサンシルクを日本で上市する事を知り、当時の豊年リーバにコンタクトを始めたのです。この時の考えでは、今の東洋ビューティ㈱で生産を行えば、その原料は全て岩瀬より納入出来るという事で動いたのです。当時の岩瀬副社長・加藤室長には進渉状況を話しながらやってきたのですが、或日、岩瀬会長と話をする機会があったので、種々報告をして今后の方向を御伺いしたのですが、「全て加藤室長と相談してやってほしい」とだけ云われたのを記憶しております。

その時には大変な決断をされたのだと思いました。当時のリーバは決して良い評判ではなかっ

たのと、その事が岩瀬家にとっても大きなカケであった事は確かだったと思います。

この様に強引とも云える面と、他方ではとてつもない決断をされた事をまのあたりにして、小生自身大変な勉強をさせて貰ったと思って居ります。

岩瀬会長の五回忌を前に小生の三〇数年間を振り返ってみますと、この様な二つの事柄だけが強烈に記憶として残っているので記してみました。

会長の言葉

岩瀬コスファ株式会社
常務取締役　川浦　清治　様

岩瀬健次郎会長がお行きになられまして五年近い日が過ぎ行きました。

私は昭和三十三年の秋に㈱岩瀬健次郎商店に入社しました。それより会長がお行きになられるまでの三十余年の日々を、会長のほゝえみをたゝえたお顔に、またやさしさのあふれた物静かなお声に接してまいりました。

その歳月、私は仕事や人生のさまざまなことを、まことに失礼で勝手なことではございましたが、会長との言葉のとりかわしを羅針盤のようにさせていただき、仕事にとり組み、時には私の人生路に利用させていただきました。

思えば未熟で血気だけが盛んな青年を、いつも物静かに言葉少くなに、そして良く御理解を示され、「そうやね、こうしたらどうでっしゃろ」と、さとすと云うことでもなく、むしろ手

ほどきをされておられたのだと思います。またある時には珈琲をごちそういただきながら、「ちかごろ、仕事のほうはどないですか」と、問われ私が「こうこうしかじかです、きびしいです。」と、応答しますと、「そうですなあ、そうですか、まあせいぜいきばってくださいよ。」と、おっしゃられることがまゝありました。

会長のきばってという言葉には、大阪弁で云う頑張ってくださいと云う意味と、御世話になっている人がたに、くれぐれも気配りをしながら物事を進めてくださいと、云う意味があると云うことが理解できたのは、入社後数年を経ていたと思います。会長の言葉のなかに、競い合うとか無理強いをなされると云うことが、一度もなかったことを鮮明に憶えています。

今、想いをめぐらしますと、会長は言葉とともに、ある透明な暖かな大きな大きい器（うつわ）をお持だったと思います。

会長とお話をかわさせていただく間に、私はきっとその大きい器に入らせていただいて居たのではと思います。と云いますのは私の心のなやみごと、争いごと、時には愚痴や苦しみが、会長と言葉をかわすことにより失くなって、さっぱりとすがすがしい気分になっていたことが

数おゝくありました。

今、つたない文章ながら亡き会長との言葉の想い出を記すことにて、久方ぶりにあのおだやかで静かな微笑を浮かべられた慈顔と、暖かで大きな大きい器の中に、身を置くことが再びできたように心静かになって居ります。

岩瀬さんを偲んで

コニシ株式会社
代表取締役会長　小西 信一郎　様

岩瀬健次郎さんが亡くなって、はや五年になる。道修町で丁稚奉行して、一代で店を築き上げた方々の明治会のメンバーも次々と亡くなって、誠に淋しい次第である。

岩瀬さんは、よく気のつく腰の低い方で、特に丁寧な、行き届いた挨拶にはいつも感心していた次第であるが、その根底では強い意志と粘りを持って、理想に向けて着実に進んでこられたと思います。

私の中学の頃、小西儀助が碁会を催し、岩瀬さんと対局したが、まだ中盤のとき早くもヨセを次々と打ってこられ、先手とはいえ堅い碁を打つ方だと思ったのが記憶に残っています。

戦後食料の乏しい時、小西の社員が毎晩の様に御馳走になっていた様である。岩瀬さんはお酒は程々に、奥様共々マージャンを楽しんでおられた。恐らくじっくりと慎重に打っておられ

たと想像します。

昭和二十八年の金融引き締めの時はさすがに苦労された様で、当社の樫谷と何回か深刻に相談をしておられたのを憶えているが、世間一般、当社も苦しい時でした。その後は会社も工場も軌道にのり、奥様共に会社も発展され、又御子息も加わって今日の隆盛を築き上げられました。永い間の夢を成し遂げ、御本人も充分満足された事と思います。

奥様とは誠に仲睦まじく、大切にされ、よく御一緒に外出されていた様ですが、晩年の頃、千里中央に立ち喰いうどんながら味のよい店があり、たまたま御夫婦で楽しんでおられるのを拝見した事があるが、お金持ちがこんな所でと思いながら気さくな御様子に、微笑ましく感じました。

思い出は尽きませんが、岩瀬さんを偲び、小文を綴らせて頂きました。

庭の己様の
祠の横に咲く
山茶花……
父は朝……晩と
毎日、心静かに
手を合わし
拝んでいました

佳世子

【出版に際して】

この度、弊社岩瀬コスファ及び東洋ビューテイの創業者でもある父の五年祭にあたり、何か故人の記念になるものを残したいと思い、古くから親しくお付き合いのあった方々に思い出を書き記して頂けたら、と思いついたのが二ヶ月前のことでした。しかしながら、会長と同年輩の方は今では九〇歳近くになられ、お元気で活躍の方も少なくなり、また会社勤めのかたは定年となり連絡が取れにくくなっておりました。

もしこの出版が五年後ではこの様な小冊子は作れなかったかもしれません。幸いにも、父と同い年の林先生、また三年先輩で箕面市の元市議会議長で、近畿化粧品原料協会総会の議長役を昨年九〇歳で勤められた名誉会長の柊木さんを始め、多くの方々に父とのふれあいを語っていただきました。ご寄稿頂いた皆様には心より御礼申し上げます。

父のこと

父は祖父の株での失敗から十三歳で小西儀助商店（現コニシ株式会社）に

丁稚として奉公することになり、二三歳で独立させて頂きましたが、小さい時腸チフスにかかり、体には自信がなく自分の寿命は四〇歳位だろうと感じ、四〇歳までは精いっぱい働いたようです。そしてその歳までに当時でいう百万長者の仲間入りをはたし、今日の基礎を造り終えたようです。南区、東成区の物品税の一、二位の納税者にランクされていたと聞いております。

終戦後は闇の商売を嫌いほとんど休業状態で、少し落ち着いた昭和二二年頃からやっと商売を再開しました。昭和二八年頃までは、子供心にも気楽な生活が続いたようですが、昭和二九年頃から化粧品メーカーの相次ぐ倒産の嵐を受け続け、一挙に資金繰りに忙しい状況に陥ったのは私の高校生の頃でした。当時の月商と同じ額の不渡り事故が十年余りの間で三回ほどありましたが、皆さんのお陰で不思議とその都度助けていただき、今振り返ると奇跡としか云いようがないでしょう。

創業者なのに、私の物心ついた頃からバリバリ営業をしていたり、叱咤激励している姿、怒った姿を一度も見たことが有りません。又学問は高等小学

校しか出ていないので、知らないことは人に教えて頂き工夫をこらし、また「最終責任は自分がとる」が営業、経理とも、仕事は皆に任し、信頼できる有能な社員を上手に育て、会社の株も社員に分かち合い、早くからガラス張りの全社経営を行っていました。

病気になり亡くなる前は痛いこと、苦しいこともあったはずなのに、何一つ表情に出さず、あっと云う間に亡くなりました。ほとんど元気なまま、仕事面でも何の心配もない状態で人生を終えられたのは何より幸せな事だったと喜んでいます。

父と家族

明治の人としては珍しいオシドリ夫婦で、会社関係の旅行はもとより仕事もほとんど夫婦で出かけていましたし、家族ともよく旅行をしました。私の小学生の頃、海水浴などは仕事を済ませてから、交通渋滞のなかった時代タクシーで浜寺まで行き、皆のそろそろ帰る五時頃から海に入っていたので、日焼けする事もほとんどなかったように覚えております。

毎日曜日は家族を連れて神社、教会に参拝し常に感謝の念の深い人で、誠実を旨とし、何回も同じ人に裏切られても腹を立てたこともないという性格は、なかなか理解できなかったのですが、しかし囲碁をすると、以外と淡泊ではなく悪くてもあきらめずに少しでもチャンスがあれば勝負をかける、独特の勝負強さがありました。会長になってからは特に囲碁に熱中し八〇歳を過ぎてからも少しずつ強くなっていました。晩年は週末に四、五時間かけて一局の碁をじっくりお互い真剣に指すのが何よりの楽しみでした。

私にとって偉大な父

私にとって父は決して恐い存在ではなかったのですが、絶えず意識する身近な理解者でした。私も副社長、社長になると共にだんだんと親父の懐の深さが分かってきました。

・英会話も全くできないのに、外国の大企業の立派な人達とも独特の大阪弁で和気あいあいと自然体で接していけた器量。

・今もし月商（十億円）と同額の不渡り事故に遭っても大丈夫か？そんなピ

ンチを何度も投げ出さず弱音をはかず前向きに切り抜けた精神力。

・それ以上に亡くなってから古参社員、役員、親戚の人、兄弟姉妹と多くの人々から〝会長は私のことを最も理解して頂いていた、私のことを特別気にしてもらっていた、私が一番かわいがられていた〟と聞かされました。私もその中の一人でしたが。（自分こそ誰よりも）と周りから思われる人生を過ごされたのは、平凡ながらスバラシイ人生の達人だと感服しました。

・振り返れば〝会長、親父さんにほめてもらいたい、喜んでもらいたい〟という子供のような気持ちが、一生懸命に働き精を出す源にあったと思います。人間として心の広い、器の大きい偉大な明治の人でした。

岩瀬コスファ株式会社
代表取締役社長　岩瀬　健治

【父を偲ぶ】

故父、岩瀬健次郎の五年祭に当たり父を懐古したとき、一言で言えば到底足元にも及ばない〝偉大なる父〟といわざるをえない。

またこの父を五一年間支えてきた母（現在七二歳）も同様である。

というのは、父が事業を興し（昭和六年、岩瀬健次郎商店、昭和十六年、寿化学）、母と結婚致しましたがその一生は仕事、仕事で、常に会社・取引先・従業員が中心で、夜・昼無く二人三脚で苦労を共にしてきた事は、我々兄弟よりも周りの関係者の人々の周知するところであります。

父の偉大さの影には、常に母が居たのです。

又、今我々兄弟があるのも、父母のこうした築き上げた苦労のうえにある事を改めて感謝致します。

恩を忘れない父

昔は、お正月といえば、朝一番家族及び同居の従業員と共に、無事一年間を過ごせた喜びと新年を迎えた喜びを分かち合い、それが済むと、先ず一番

に母屋（小西儀助商店）の社長の家に父母が揃って挨拶にお伺いし、その後に社員一同と共に新年のお祝いをしたものでした。その後この様な習慣も無くなっても、亡くなるまで折りに触れ年に二～三度は、母屋の社長様の自宅にお礼にお伺いしておりました。

又、非常に困った時にお助け頂いた方々にも同様に礼を忘れる事無く、尽くし続けていました。

〝恩に限りは無い〟今在るのは、その時助けて頂いたから在るのや！　その恩は一生忘れてはいかん！

自然体で物事に動じない父

常にそうでしたが、外人さんと日本人が入り交じったパーティなどがあった時、父は目的のお話し合いしたい人を見つけるとそれが外人さんであろうと無かろうと構うことなくつかつかと小走りに近寄り、全く普段と変わりなくそれも京都弁で話し掛けるのでした。

又、私と一緒に外国に行った時も同様で、レストランのウェイトレス嬢に全く日本に居るのと変わりなく、ごく自然に日本語で話し掛け、それがまた

全て相手と通じあったのには私も驚きました。

人情味のある父

人情味のあるというか心細やかというか非常に感心させられる事が多い。あまり東洋ビューティに来ないのに、たまに来ては会う人々に少し声を掛ける。それが人々に非常な感銘を与え、喜びと成り、心に深く何か残すのである。

怒る事、厭味な事は一切言わない。

人徳の成せる技か！

信用・信頼を人一倍大切にする父

石油ショックの時でした。

物が無く、手に入れば値段は付け放題で何倍にでも売れる時代でした。

このような時、父は社員を集めどんな事をしても商品を切らすな！　高く売っては駄目だ！　日頃お世話に成っているお得意先様にご迷惑をお掛けしないように！　このような時に日頃の御恩返しをしなくては！　と言っていたことを覚えています。

後々にお得意先様よりお礼の言葉を聞いた時、これが大きな信用を生んだ事を実感いたしました。

細やかで厳しい父

父母から実家の敷地内の一部に家を建てる様に言われ、早速設計計画を持って父の所へ持っていくと、資金計画は?、返済計画は出来ているかと聞かれ、それなりに説明すると、細かくチエックし諸注意を与えられ、〝まあ、とにかくやってみ!〟と言い、〝本当に困ったら相談においで〟と言った切り、それ以上は後にも先にも一切言わなかった。

晩年は、庭を楽しみ、季節感を肌で感じ、人一倍楽しんでいた父でした。

本当にありがとう!

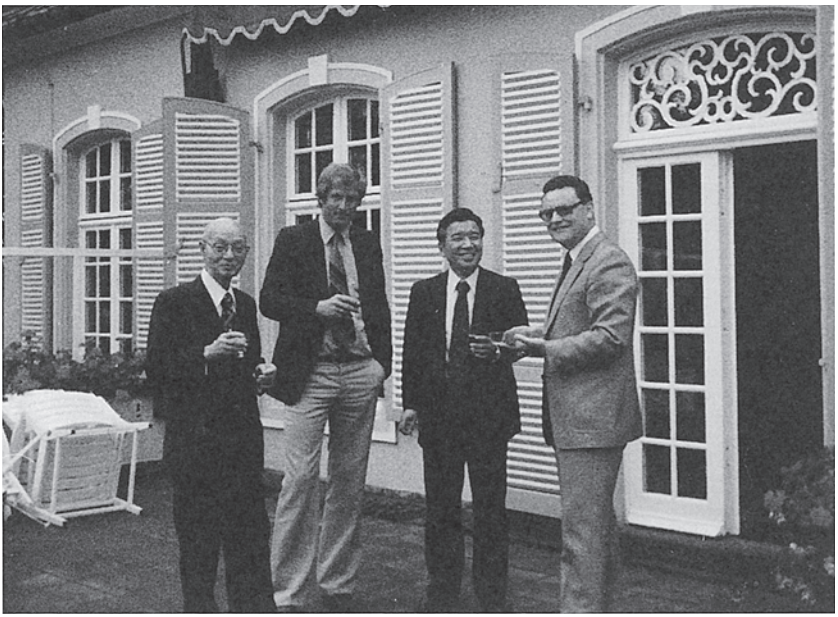
父には到底とどきませんが、兄弟合わせ一生懸命頑張ります!

偉大すぎる父へ!

東洋ビューティ株式会社

代表取締役社長　**岩瀬　保彦**

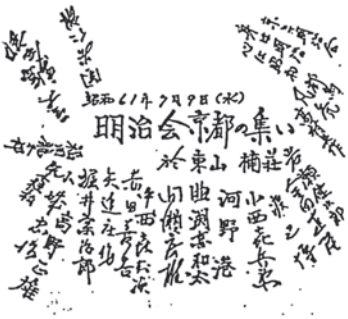
昭和53年６月　英国ブランデボンオペラ鑑賞　ユニリーバ本社役員と



昭和53年６月　ドイツ・ドラゴコ本社迎賓館にて

NIPPO (Pharmaceutical News)　昭和61年8月5日　火曜日　(AUG 5 1986)

京都で明治会が
61年度前期総会



大阪・道修町を中心とした薬業界の明治生まれの人の親睦団体である明治会（会長岩瀬健次郎氏）は七月九日、京都市東山区の楠荘で六十一年度前期総会を開催し、物故会員（片岡嘉太郎氏）の冥福を祈って黙禱したあと、岩瀬会長が会員動静などにふれてあいさつ、高野幹事より会計報告があり、承認可決した。

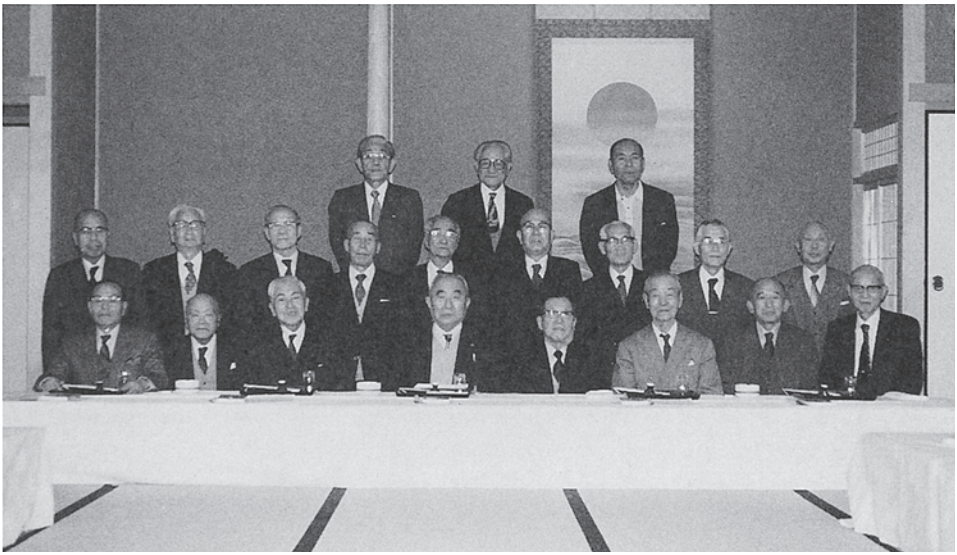
引き続き懇親宴に移り、最長老の美馬多三郎氏の音頭で会の発展と会員の健康弥栄を祈念して乾杯、旧交を温め歓談し、祇園小唄の踊りでは全員合唱で賑やかに歓を尽くした。また翌十日は朝食のあと観光バスの車中で総会・懇親会の模様を撮影したビデオ録画を再生した。

なお九日は総会に先立って京都市右京区嵯峨の日本歴史資料館で昔日を偲ぶ貴重な文化遺産を見学、洛北三山の麓に三万五〇〇〇坪の広大な薬晴らしい日本庭園をもつ「しょうざん」で昼食をとり、京都市左京区の京都市伝統産業会館も見学した。

薬事日報

（毎週火・木・土発行）
発行所
薬事日報社
東京都千代田区神田和泉町1－11
郵便番号101
電話　東京 03(862)2141番(代表)
振替　東京5－80665番
(年年12,000円・1年22,000円を送料共)

大阪支社
大阪市東区道修町2-19 山口ビル内
郵便番号541
電話　大阪 06 (203) 4191－4番



昭和58年１月　明治会（薬の街道修町で明治生れの創業者の会）　於：相生樓

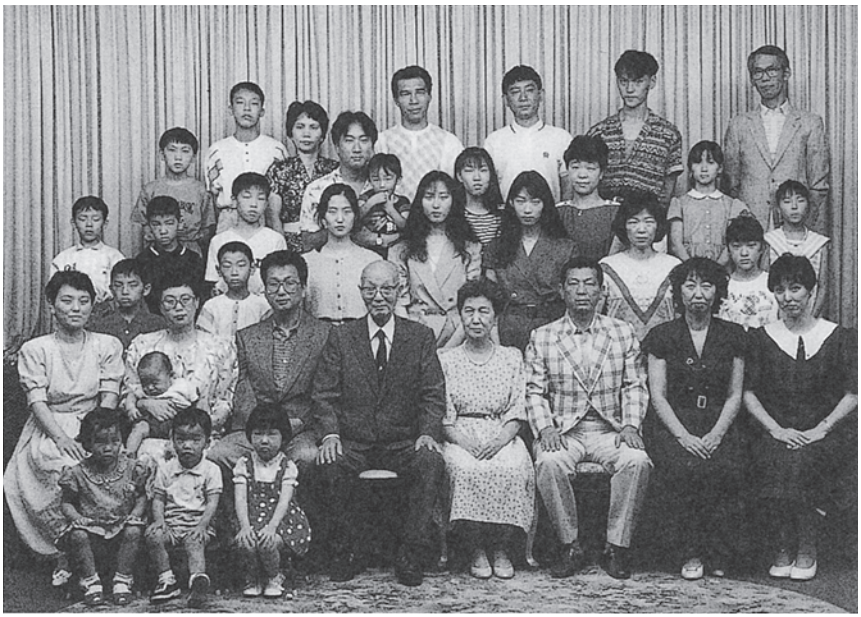
昭和59年10月　近畿化粧品原料協会第11回懇親会旅行　於：栗林公園

昭和63年５月　大阪府知事表彰式　於：府立文化センターホール

昭和56年　創業50周年記念講演会にて　於：渋谷　東邦生命ホール

昭和60年６月４日　社名改称記念講演会終了後　社員一同と　於：大阪コクサイホテル

昭和53年秋　自宅にて　子供５人、孫６人



平成元年夏　金婚式京都にて　子供夫婦12人、孫20人、曾孫４人の大家族となる

和と進歩

平成七年八月　初版
平成十三年九月　第二版
平成二十二年三月　第三版
平成二十七年九月　第四版
令和元年六月　第五版
発行　岩瀬コスファ株式会社
　　東洋ビューティ株式会社
著者　有志
非売品